

1

放牧受け入れによる 牧野の維持管理と地域の交流

- 実施主体 狩尾牧野組合（阿蘇市）
- 実施場所 狩尾牧野（阿蘇市）
- 実施期間 平成27年4月～平成27年12月



◇背景・ねらい

狩尾牧野組合では、北外輪山上に位置する牧野を採草や放牧に利用しながら、毎年、野焼きなどを行い、牧野の維持管理を続けている。また、有畜農家が減少する中、周年放牧や熊本型放牧などにより牧野の有効利用に努めている。

平成8年から行っている熊本型放牧（山鹿市などから放牧未経験牛を中心に50～80頭を受け入れ）を行うとともに、利用者との交流を図る。

◆実施概要

○熊本型放牧受託

- ・放牧受け入れ時期：平成27年4月20日～11月30日
- ・受け入れ頭数：82頭位（4割があか牛）、県畜産農協城北支所、城南支所管内の畜産農家24戸
- ・放牧期間中、毎月1回の放牧牛健康検査を実施

○関係者の交流

- ・年2回あか牛バーベキュー（入牧時、退牧時に牧野内で実施）
- ・参加者：預託農家24名、家畜保健所3名、県畜協職員5名、組合員6名
- ・退牧後、12月には忘年会を兼ねて反省会（大津で）

◆実施体制

- ・預託農家（城北支所、城南支所管内の農家） ・家畜保健衛生所（健康検査）
- ・県畜協職員 ・狩尾牧野組合員

◆成 果

- ・昨年度（H27）の預託放牧受け入れは順調に進み、預託農家にとって、放牧により管理作業が楽になった。受け入れ頭数を増やしてほしいという要望もある。
- ・預託を受け入れた組合にとっては、放牧原野の荒廃防止につながった。
- ・交流会には計38名が参加し、関係者の交流を深めることにより事業の継続にもつなげることができた。

◆実施者の感想

- ・今年（H28）は熊本地震の発生により放牧受け入れ時期を5月連休後に延期せざるを得なかった。頭数は被災した城南地域などからの受け入れが増え、預託頭数は予定より増え、7月時点で93頭、秋には草が足りなくなることも考えられる。
- ・地震では牧番小屋も損傷した。預託放牧の関係で女性も含め牧番小屋を使うことが多いので、修復できるといいと思っている。
- ・牧野へ繋がる狩尾坂（ラピュタの道）が地震被害で不通になり非常に不便になっている。復旧見通しは立たないが、立ち入る人が多く危険なため、阿蘇市の要請によりミルクロード沿いの入口にロールを並べて侵入禁止にしている。